連載

今こそ聞きたい！決済高度化入門

第4回

大口決済の高度化③ ～インテグレイテッド・システム

麗澤大学
経済学部 教授
中島 真志

決済システムの第3の進化

決済システムの「RTGS化」「ハイブリッド化」に続く第3の進化が「インテグレイテッド化」である。インテグレイテッド・システムとは、RTGSモードとハイブリッド・モードという二つの決済機能を有する決済システムのことをいう。

これまで決済処理の方法は、時点ネット決済やRTGSなど一つに限られていた。これに対してインテグレイテッド・システムは、参加者（金融機関）が自らのニーズに応じて二つのモードを使い分ける。すなわち、緊急性の高い支払いについてはリアルタイムで決済を行う「RTGSモード」を使う一方で、特に急がない支払いについては、流動性を大幅に節約できる「ハイブリッド・モード」を使うといったかたちで、両モードを使い分けることができる。

ハイブリッド・モードは、少ない流動性で決済を進めることができるため、「流動性節約モード」とも呼ばれ、同モードで決済処理を進める手法は、「オフセッティング機能」とも呼称される。具体的には図表1のような仕組みであり、結果として支払いと受取りの差額分を決済するネッティングを行うのと同じ効果が発生する。ネッティングがいったんネットポジションを算出したうえで処理を行うのに対し、オフセッティングでは、グロスのままで複数の支払い指図を同時に履行するという点で、両者の間には概念的に若干の違いがある。しかし、最終的に得られる結果は同じであり、参加者の立場から見た経済的効果は同一である。

各国のインテグレイテッド化

二つの決済モードを有するという画期的な決済システムを世界で初めて導入したのがカナダの「LVTS」であり、1999年に稼働を開始した（図表2）。LVTSには「トランシェ1」と「トランシェ2」という二つの決済モードが設けられており、前者は支払指図が1件ごとにリアルタイムで決済される「RTGSモード」であり、後者は参加者間で連続的なネッティングが行われる「流動性節約モード」であった。LVTSを嚆矢（こうし）として、その後多くの決済システムが「二つの決済モード」というコンセプトに基づくシステムを構築するようになり、世界の決済システムに大きな影響を与えた。

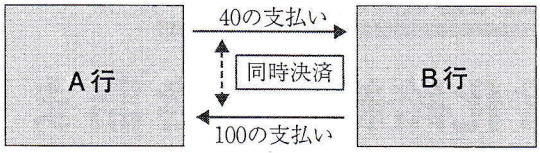
カナダに次いでインテグレイテッド化を達成したのがフランスである。フランスでは99年にハイブリッド・システムである「PNS」と、RTGSシステムである「TBF」との間に

「流動性ブリッジ」を構築し、二つの決済システム間で流動性（資金）を自由に移動できるようにした。このため参加者から見ると一体化したシステムとして使えるようになり、「パリ統合システム」（PIS）と呼ばれるようになった。

フランスにすぐに追随したのがドイツであり、2001年に「RTGSプラス」を稼働させた。RTGSプラスは「EXペイメント」と「リミットペイメント」という二つのモードを有し、前者がRTGSモードで、後者が流動性節約モードであった。RTGSプラスの機能は、ほぼそのまま現行の「TARGET2」に組み込まれており、単一通貨「ユーロ」の決済機能の高度化に重要な影響を与えた決済システムとして評価できる。

ユーロの決済システムは、07～08年に、第1世代の「TARGET」から第2世代の「TARGET2」に移行した。TARGETは、各国の決済システムをそのままネットワークでつないだだけであったが、TARGET2は共通プラットフォームで決済処理を行う中央集権型のシステムとなった。ドイツ、フランス、イタリアの3中銀が協力してシステム構築を行い、RTGSプラスの高度な機能がそのまま盛り込まれた。TARGET2は、RTGSモードと流動性節約モードの二つを有するほか、高度な流動性管理機能が盛り込まれており、先進的なインテグレイテッド・システムとなっている。

〔図表1〕 オフセッティングの仕組み（バイラテラルのケース）



残高の変化（結果）	60の増加	60の減少

〔図表2〕 インテグレイテッド・システムの導入時期

国名	決済システム名	導入時期
カナダ	LVTS	1999年2月
フランス	PIS	1999年4月
ドイツ	RTGSプラス	2001年11月
イタリア	new BIREL	2004年4月
シンガポール	MEPSプラス	2006年12月
EU	TARGET2	2007年11月
日本	日銀ネット（次世代RTGS）	2008年10月
韓国	BOK-Wireプラス	2009年4月
英国	CHAPS	2013年4月

日銀ネットの次世代RTGS

わが国の日銀ネットは、01年にRTGS化を行った後は、純粋なRTGSシステムとして運営されていたが、システムの高度化を目指した「次世代RTGSプロジェクト」により08年に流動性節約モードが追加された。これにより、日銀ネットはRTGSモードと流動性節約モードの二つの決済モードを有することになり、インテグレイテッド・システムの仲間入りを果たした。

日銀ネットにおける流動性節約機能は「複数指図同時決済機能」と呼ばれ、二つの参加者間でオフセッティングが行われる「二者間同時決済」と、3者以上の参加者間で行われる「多者間同時決済」の2種類が設けられている。海外のシステムでは一つの口座から二つの機能を利用するケースが多いが、日銀ネットでは、RTGS機能は「通常口」を利用する一方、流動性節約機能は「同時決済口」を使って行われるというかたちで「2口座制」を採っている点が特徴となっている。

ここまで述べてきたように、大口決済システムは、1日に1回だけネット決済を行うという単純な「時点決済システム」から始まり、リアルタイムでグロス決済を行う「RTGSシステム」へと発展を遂げた。その後、頻繁なネッティングを行うという「ハイブリッド・システム」の出現をきっかけにさらなる進化を遂げた後、RTGSとハイブリッドとの組合せにより、「インテグレイテッド・システム」へと高度化を遂げてきた。わが国における決済システムの進展も、こうした世界的な決済システム高度化の潮流による影響を大きく受けている。◇